



## 📁 クルアーン

### 唯一神アッラー

言え、「かれはアッラー、唯一なる御方おかたであられる。  
アッラーは、自存され、  
御産おみなさらないし、御産れになられたのではない、  
かれに比べ得る、何ものもない。」

(第112章1～4節)

### 正しく仕えるということ

正しく仕つかえるということは、あなたがたの顔を東または西に向けることではない。  
つまり正しく仕えるとは、アッラーとの最後の(審判の)日、天使たち、諸啓典けいてんと預言者たちを信じ、彼を愛するためにその財産を、近親、孤児、貧者、旅路にある者や物乞いや奴隷の解放のために費ついやし、礼拝の務めを守り、定めきしやの喜捨を行い、約束した時はその約束を果たし、また困苦こんくと逆境と非常時に際しては、よく耐え忍ぶ者。  
これらこそ真実な者であり、またこれらこそ主しゅを畏おそれる者である。

(第2章177節)

### 最後の審判

いや、あなたがたは審判を嘘であるという。  
本当にあなたがたの上には2人の看守(天使)がいるが、  
かれらは気高い記録者で、  
あなたがたの所行を知っている。  
敬虔けいけんなものは、必ず至福の中にいる。  
罪つみある者は、きっと火の中において、  
審判の日、かれらはそこで焼かれ、  
そこから、逃れられない。  
審判の日が何であるかを、あなたに理解させるものは何か。  
一体審判の日が何であるのかを、あなたに理解させるものは何か。  
その日、どの魂ほかも外の魂のために(役立つ)何の力も持たない。  
命令は、その日アッラーのもの。

(第82章9～19節)

## 多神教信仰者，偶像崇拜についての啓示

言ってやるがいい。「おお不信者たちよ、  
 わたしは、あなたがたが崇<sup>あが</sup>めるものを崇めない。  
 あなたがたは、わたしが崇めるものを、崇める者たちではない。  
 わたしは、あなたがたが崇めてきたものの、崇<sup>すうはいしや</sup>拝者ではない。  
 あなたがたは、わたしが崇めてきたものの、崇拝者ではない。  
 あなたがたには、あなたがたの宗教があり、わたしには、わたしの宗教があるのである。」  
 (第109章1～6節)

## ハラール

かれがあなたがたに、(食べることを)禁じられるものは、死肉、血、豚肉、およびア  
 ッラー以外にと畜されたものである。  
 だが故意に違反せず、また法<sup>のり</sup>を越えず必要に迫られた場合は罪にはならない。  
 アッラーは寛容<sup>かんよう</sup>にして慈悲<sup>じひ</sup>深い方であられる。  
 (第2章173節)

『クルアーン』(日本ムスリム協会訳)より